

# 「地域に開かれた教会」

## 当事者研究+

### ひだまりミーティング

#### 鹿内弘恵(ろっち)

#### 鹿内清和(しかさん)



わたしたちは羊の群れ イザヤ書53:6

はじめまして、札幌市在住の鹿内弘恵と申します。普段「ろっち」と呼ばれています。島松伝道所で行われている「当事者研究」および「ひだまりミーティング」によく参加させていただいています。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、当事者研究とは浦河べつるの家ではじまった「生きづらさ・苦勞を抱えている人たちが自

分自身の研究を行うプログラム」のことで、数年前に村田さんという方が辻中牧師夫妻の協力を得て島松伝道所でも行い始めました。パートナー(後述のしかさん)が参加しはじめたのをキッカケに、わたしもたまに一緒に行くようになりましした。昔のことはあまり覚えていませんが、当時からみてメンバーも色々々々入れ替わり、今ではすっかり自分も(自称)常連になりました。

島松伝道所での当事者研究は、わたしにとって安心安全な同窓会(サークル活動?)みたいな感覚があります。どんな状況であっても、参加して顔見知りのメンバーに会えば、帰る頃には多少なりとも気持ちが上がります。二進も三進もいかない時期には、わたしの研究としてその時直面している苦勞を取り扱ってもらい、みなさんから新たな気付きやアイデアをいただいています。わたしにとって等身大の自分で居られる「大事な場所」のひとつとなりました。

いつしか当事者研究の常連有志が集まって、「ひだまりミーティング」という島松伝道所を中心とした街づくりのための企画会議も開くようになってきました。こちらの詳細はしかさんにバトンタッチしようと思いません。

人間味あふれる徹也牧師と、ナチュラルに愛情あふれる明子牧師のご尽力により、この教会があたたかさあふれる居場所であること

に感謝いたします。これからもみんなの憩いの郷でありますように。

\*\*\*

ここからは、鹿内清和(しかさん)がご紹介させていただきます。

「ひだまりミーティング」は当事者研究の仲間に「教会を地域に開かれた場所にしたいんです」という徹也牧師の言葉から始まりましした。宗教も何も関係なく地域に開かれる場所。そして、出てきたアイデアが「本」にまつわることでした。恵庭は「花」と同時に「本」についても豊かな街にしようという「恵庭まちじゅう図書館」など様々な催しが開かれています。この地域性を大切にして「本」にまつわることをしてみようという試みを始めました。それが「ブックトーク」という試みです。

「ブックトーク」とはそれぞれの人が自分のオススメの本を持ち寄ってその本にまつわるお話をするという会です。この島松伝道所では一人5分程度の持ち時間でどのように時間を使ってもその本についてどんな話をしてもらってもかまわないことになっています。その本についての話、紹介する人の人生そうしたものと言葉から伝わってきます。

また、新たに偶数月の15日の日中「ひだまり図書館」という居場所スペースを開催する試みも始まりましした。「地域に開かれた教会」ってステキですね。

「本と」のあなたに出会いたい!



ブックトークでハーブ・ティーを飲もうと、6月に苗を植えました。りっぱに育ちました。ほっ!